



熊本県内の多くの地域で道路の寸断や家屋の倒壊、停電、断水など甚大の被害が発生（2026年7月30日撮影）

— 令和8年7月熊本地震・緊急支援 —

「災害関連死」を防ぐために

2026年7月28日、熊本県熊本地方を震源とする地震があり、同県宇城市と氷川町で震度7を観測しました。熊本県によると、8月18日までに県内で39人の死亡が確認され、住宅被害は3万2,000棟以上にのぼります。未だ断水が続く地域もあり、酷暑のなか、「災害関連死」を防ぐ取り組みが喫緊の課題となっています。

Civic Forceは、発災翌日から緊急支援活動を開始。特に被害の大きかった氷川町や八代市、宇城市を中心に、避難所の環境整備や運営サポート、企業と連携した物資配布などを実施しています。また、被災した地域の復旧・復興を中長期的な視点で後押しする独自プログラム「NPOパートナー協働事業」を見据えた現地調査も開始しました。

本号では発災直後から実施した、10日間に渡る緊急期の支援活動についてご報告いたします。



ご支援のお礼とお願い

多くの皆様にご支援いただき、2026年8月10日までに2,500万円以上のご寄付を頂戴しております。たくさんの応援メッセージもありがとうございます。甚大な被害を前に支援活動は長引くことが予想されます。引き続きご関心をお寄せください。

緊急支援募金
受付中

令和8年
熊本地震



令和8年7月 熊本地震・緊急支援 発災から10日、「災害関連死」を防ぐために

甚大な被害を受けた熊本県では
12市町・125カ所の避難所に約6,700人が避難しています(8月6日14時時点、熊本県)。
Civic Forceは発災直後から出動準備を開始し、
翌日から氷川町や八代市、宇城市で緊急支援活動を行っています。

氷川町



最大震度7を観測した氷川町は多数の家屋倒壊に加え、停電・断水により深刻な被災状況でした。7月30日には、車中泊をしていた70歳代の女性が熱中症の疑いで死亡(今回の地震による初の災害関連死)。酷暑の避難生活を支えるため熱中症対策を強化しています。

八代市



最大震度6強を観測した八代市では、多くの方が避難所での生活を余儀なくされました。Civic Forceでは、避難所の代陽(たいよう)コミュニティセンターへ台湾から寄贈されたポップアップ式間仕切りとテーブル、椅子を提供。避難者のプライバシー確保と生活環境改善に役立てました。

宇城市



最大震度7を観測した宇城市では、人手が足りないことなどもあり、必要な物資が被災者に十分に行き届かない状況が生じていました。市との協議をもとに、Civic Forceは8月5日から物資輸送や避難所の環境整備を開始。松橋東防災拠点センターを中心に支援を継続予定です。

連携の力

被災地の活動は、平時から続けてきた訓練や企業間ネットワークの力が生かされています。



緊急災害対応アライアンス「SEMA(シーマ)」は、民間企業と市民団体が連携して災害支援を行うため、2017年に設立され、企業123社、市民団体6団体が加盟しています(2026年8月現在)。Civic Forceは被災地でいち早くニーズを調査し、SEMA加盟企業から寄せられる物資やサービスを迅速に届けています。



「日本プロ野球選手会災害支援基金(通称:選手会ファンド)」は、日本プロ野球選手会とCivic Forceが2021年に創設した基金です。今回の緊急支援でも、同基金を通じた物資支援を行っています。

7月28日

7月29日~

7月31日~

8月1日

8月8日~

地震発生

(発災後11日目)以降

ニーズに合わせた物資を配布



Civic Forceは、発災翌日から物資のピストン輸送を開始。熱中症対策キット(経口補水パウダー、冷却パック、クールタオルなど)をはじめとする緊急支援物資を氷川町・八代市・宇城市の8カ所以上の避難所やボランティアセンターへお届けしました(8月7日時点)。被災者の声をもとに、必要とされる物資をタイムリーに配布しています。

非常用トイレ8,000回分/トイレトイレットペーパー1,500個/飲料2,000本/味噌汁1200食/羊羹400個/熱中症対策キット160セット/冷却グッズ300個/コットンケット200枚/歯ブラシ200個/下着600セット/Tシャツ・衣類200枚/生理用品200パック/おむつ388枚/エアマットレス100個/エア枕83個/掃除・トイレ用品250個/ポータブル電源13台/スポンツークーラー4台/サーキュレーター4台/衛生キットなど



避難所の環境整備

避難所では衛生面の課題があり、Civic Forceはいち早く手洗い用の水タンクや消毒類、清掃用品を設置。避難中の病気やストレスによって引き起こされる災害関連死を防ぐため、避難所の環境整備にも注力しています。



台湾からの寄贈物資到着

台湾の社団法人中華民国愛と進歩消防公益協会(社団法人中華民国愛と進歩消防公益協会)から迅速な支援の申し出があり、500万円のご寄付とともに、折り畳み式ベッド100台、ポップアップ式間仕切り40個、折り畳み式テーブル25台をご寄贈いただきました。8月1日に熊本空港へ到着し、同日中に氷川町・八代市の避難所へお届けしました。



中長期支援の準備開始

被災した地域の復旧・復興を中長期的な視点で後押しする独自プログラム「NPOパートナー協働事業」に向けた現地調査を開始しました。

宇城市
氷川町
八代市

KUMAMOTO

VOICE

被災地で出会った
皆さんからのメッセージ

本当に必要な支援を届けるためには、被災された方お一人おひとりの声に耳を傾け、表に出にくいニーズや困りごとを丁寧にすくい上げることが欠かせません。
私たちがこの活動が続けられる原動力は、支援を届けた先でいただく笑顔や、心温まるメッセージです。
ここでは、支援先で寄せられた「声」の一部をご紹介します。

「寝心地のいいマットを届けてくれて 本当にありがとう」

— 避難所でエアマットレスを受け取った女性



エアマットレスの配布・組み立て支援



高品質寝具を配布



台湾からの寄贈物資が熊本へ

「段ボールベッドの展開から配置調整まで サポートいただき、とても助かった」

— 避難所の職員



段ボールベッドの設置支援

「綿素材で肌触りが良く、 昨日は久しぶりに 深い眠りにつけた」

— 避難所でコットンケットを受け取った女性



冷凍ストッカー設置

「埃っぽかったので、 清掃用品は本当に助かる！」

— 避難所で清掃用品を受け取った男性



清掃用品支援

「冷凍庫が欲しかったが、 まさか支援してもらえとは。非常にありがたい」

— 避難所で冷凍ストッカーを使った男性



救援物資を配布

「自由にお湯が使えて嬉しい！」

— 避難所で電気ケトルを使った女性



電気ケトル設置

関心を持ち続け 被災地に心を寄せて

Civic Force代表理事 根木佳織



この度の熊本地震により、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
今回の地震では熊本県内の広い範囲が甚大な被害を受けました。連日の酷暑のなか、断水が続く地域も多く、日常を取り戻すにはまだまだ時間がかかります。緊急フェーズが長引くなか、避難所の生活環境や衛生面の課題に対応し、災害関連死を防ぐための支援が急務です。Civic Forceは、避難所の環境整備をはじめとした支援を通じて、被災された方々の健康を守るサポートを行ってまいります。今後も引き続き被災地への関心を持ち続けていただければ幸いです。

被災地から
連日、配信中



SNSでも最新情報をお届けします

シビックフォース

